

東北教区報 2021年12月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
天国の鍵とみ言葉の剣

司祭 ヤコブ 林 国 秀

私の奉職する福島県にある郡山聖ペテロ聖パウロ教会は、郡山市街地の中心に位置する麓山の上に建っています。聖堂は、1932年（昭和7年）に、当時のジョン・コール・マキム司祭が尽力されて建立し、ビンステッド主教により聖別されました。鉄筋コンクリート造ゴシック様式の荘厳で神聖な趣が今も保たれ、登録有形文化財に指定されています。そして2011年の東日本大震災の際には、地震の大きな揺れに加えて、地域全体が原発事故による放射性物質の被害に見舞われ、大変な苦難を負われました。その時、日本聖公会の取り組みの拠点となるべく、セントポール会館が建てられ活動が行なわれました。現在は、信徒会館としての機能や幼稚園関係の集会だけでなく、地域に開かれた施設として英会話教室、学習教室、生け花教室、諸団体の会議などに用いられ



れています。すばらしい聖堂が建てられたことや聖ペテロ、聖パウロという二人の偉大な使徒の名前が命名されたことは、先人たちの宣教伝道への意気込みとして今も受け継が

れています。そして聖堂内部の聖書台の前には、その象徴となるべく高さ30cmほどの聖ペテロと聖パウロの像が並べて安置されています（写真）。

聖ペテロは、主イエスの最初の弟子となり、「あなたがたは、わたしを何者だというのか。」と主イエスから問われ、

真つ先に「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰告白をし、「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。」（マタイ16:19）と言われました。それゆえこの像の聖ペテロも立派な鍵を抱えており、聖ペテロが教会を「守る」使徒という思いが湧いてきます。しかしその聖ペテロは、主の十字架の際、主の仲間であることを三度も否定するという罪と汚点を残してしまっています。一方聖パウロの像は、左手に剣を持ち、右手には聖書を抱え、み言葉を武器に何事をも恐れずぐんぐんと前に切り開いて進む、力強いイメージが沸き上がります。パウロの持つ剣と聖書は「霊の剣、すなわち神の言葉」（エフェソ6:17）を表し、さらにその剣は「どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髓とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができる」（ヘブライ4:12）と証されています。しかし聖パウロは他の使徒とは異質で、回心し、主に従う以前は主の働きに加わる人々を迫害して捕らえ、殺しさえする人物だったことが包み隠さず伝えられ

ていることを加えます。教会は、信仰や礼拝を「守る」一方で、外に向かって切り「開く」姿勢を持ちますが、聖ペテロのもつ鍵と聖パウロのもつ剣は、教会に備わるべきその二つを表しているといえます。

聖ペテロと聖パウロの働きが全く違う性質のようにも記しましたが、二人には前述のように人間の弱さから犯した罪を「神様に赦され、愛に包み込まれた人」という大きな共通点があります。それは復活の主との出会いの中で変えられる、その後自らも人を救い、希望に満たされ立ち上ったという点で同じです。さらに偉大な使徒にも拘わらず人間としての弱さや負の人生も包み隠さず聖書に残したことや神様に愛された喜びを証したことが、この二人の偉大さであることに気づきます。私たち誰もが、主イエスとの出会いの中で神様に赦され、その恵みによって歩み、愛され立っている者です。私たちも懸命に信仰を守り、心を開き、捧げ、主イエスの愛の生きた証し人、その肢として教会の働きを共に強めてまいりましょう。

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師)

東北教区宣教130周年 記念礼拝と研修

—教区内6会場にて分散開催—

東北教区における聖公会の伝道は、当時北東京地方部監督であったジョン・マキム主教が、1891年にウォーラー長老と佐藤国三郎伝道師を福島に派遣したことから始まりました。それから数えて今年、東北教区は宣教130周年の記念の年を迎えました。

この節目を覚えて、記念礼拝をコロナ禍の中にあつてどのように行うかを常置委員会、主事会議で話し合いを重ねました。東北地方全体でコロナ感染者の数は減ってきているものの、仙台(教区主教座聖堂)に一同が会することには慎重な判断をするべき、また東北各地から仙台に集まるのは心情的に積極的なれないのではないかと、そうした中で一人でも多くの方々

に参加して頂きたいという思いから、去る11月3日(水・

祝)午後1時より教区内6会場(仙台、青森、盛岡、秋田、山形、郡山)において分散開催方式で同じ式文を用いて、同じ時に記念礼拝が捧げられ、約100名の方が出席されました。また、礼拝は東北教区YouTubeチャンネルにより配信されました。吉田雅人教区主教は礼拝説教で「イエス様はご自分が行こうとされている町や村に二人ずつ先に派遣されたがそれはあらかじめ主ご自身が行こうと決めておられた場所であつたということです。そしてそこには



(教区主教による説教)



(青森会場)

癒やし、安らぎを必要としている人がたくさんおり弟子たちを先に派遣したのではないのでしょうか。東北教区にも今から130年前にその同じ理由で最初の伝道者が遣わされ、今も教区内21の拠点に信徒・教役者の共同体が遣わされているのだと思います。私たちは今一度初期の伝道者の方々の熱意と使命感に思いを馳せ、それぞれが遣わされた地での働きを再構築していきたいと思います。イエス様は二人または三人がわたしの名によつて集まるところには、わたしもその中にいるのであるとの御言葉に依り頼んで、これか

らの教区の歩みを一歩ずつ進めていきたいと思っています。」と語られました。説教は事前に司式者に配付され、主教座聖堂以外の各会場では礼拝の中で朗読されました。

記念礼拝に引き続き、私たちが東北の地でキリストの宣教の御業を行うために、これからどのような選択をするべきかについて学ぶ研修の時を持ちました。研修は、主教座聖堂と各会場をつないでオンラインで行われました。昨年の日本聖公会総会決議により日本聖公会は「宣教協働区」という新しい体制に舵を切り



(岩手会場)



(山形会場)

ました。これにより東北教区も東日本宣教協働区に移行しました。吉田雅人教区主教は2023年3月31日を以て定年退職を迎えられます。次期教区主教を選出して宣教協働区への道を歩み始めるのか、もしくは教区主教を選出せず伝道教区へと移行し、宣教協働区への道を歩んでいく道を選ぶのかを私たちは決めなければなりません。今回は約100名でそのことを考える時が与えられたと思います。今後皆様と一緒に考え、結論を出していきたいと思っています。

(宣教主事 司祭

ステパノ 越山哲也)

「各教区宣教担当者の集い」参加報告

総務主事 パウロ 浅原 和裕

9月9日・10日、10月7日・8日の午後7時から2時間、Webにより、「各教区宣教担当者の集い」が行われました。今回は各教区の宣教に関する協議にあわせ、2022年11月に計画されている「日本聖公会宣教協議会」(於：清里)開催についての意見交換会がなされました。当教区宣教担当者 越山哲也司祭が同協議会の実行委員会副委員長でもあるため、教区要員として小職も参加いたしました。

はじめに各教区宣教活動が報告され、東北教区は、①2011年大震災来「いっしょに歩こう！プロジェクト」から現在の「東日本大震災被災者支援プロジェクト」に至るまでの被災者支援活動、②2016年中長期展望を考える部門として「教区5年・10年展望会議(現教区展望会議)」を設置、直面する課題とそれを執行する本格的な組織改革の是非に至る議論が始まり、2019年教区展望会議によ

り「教区宣教方針(ミッション・ステートメント)」が策定され進み始めたことを報告いたしました。各教区からも相当広範で深い内容の努力と実践が行われてきたことが報告されています。

小グループによる分かち合いでは、コロナ禍における教区行事の実施方法やWeb会議におけるコミュニケーションの取り方について、多くの時間が割られました。協議会も集合により開催するか、Webの可能性に賭けるのか、今後の課題となります。

今、日本聖公会内では、主教選挙を実施する教区、宣教協働区に関する動きが進み伝道教区になった教区、教区合併に舵を切った教区がありましたが、私たち東北教区も「伝道教区」に移行するか否かという、教区運営に係わる重大な事項に臨んでいます。信徒一人ひとりが当事者として一緒に考えていかなければなりません。私たちの抱える当事

者意識とは何でしょうか。もはや自教会だけの情報はもとより他教区の情勢も加味した上の活動となることは必定で、しかも偏った情報ではないという条件が付くことになると思います。自分たちで考え議論し判断していかなくてはなりません。

私も総務主事として、必要な情報が教区事務所を通じてきちんと届けられるよう努力をしてまいります。求めることは主が与えてくださるとはいえ精いっぱい努力せよと云うのが真の教えだと思っています。コロナが収束すれば、教区内でもヴァイアル山荘の活用、室根聖ナタエル教会の利用など様々な企画が実現するでしょう。希望をもって前に進みたいものです。

「ともに祈る」ということはどういうことなのか。理想は高く掲げることも重要ですが、足元も十分に固まっていなと次の行動には移れないということ、強く意識する会議となりました。

※詳細は「日本聖公会管区事務所だより第369号(10月25日号)」「管区宣教主事 卓志雄司祭の報告をご参照ください。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

10月29日、第93回広畑お茶会が4カ月ぶりに開催されました。新地の方9名、仙台から6名の参加でした。

この日、刷り上がったばかりの『震災証言集』がメンバーの皆さんに手渡されました。ちょうど1年前の今頃、原稿の依頼をしました。「何書いたか忘れたな」と自分の箇所を探す皆さん。10名の方が執筆してくれました。私たちスタッフも10年の関わりなのに、証言集を読んで初めて分かったこともあり、震災当時の貴重な体験を記して頂いたことに深く感謝し、この10年の歩みを振り返っています。

コロナ禍の自粛生活の中、暮らしぶりを各人に尋ねたところ、新地町は感染者が少なく、皆さんの生活はほとんどいつもと変わりなく、平和で穏やかに過ごしていた様子でした。

会の最後、久々にA姉のマジックショーが披露されて、笑いの中で幕を閉じました。

(梅津 庸子)

常置委員会報告

(第14回・10月19日開催)

◆教役者給与規程、教区事務所職員給与規程について。宣教協働区への移行に伴い、夏冬の手当と扶養手当について、日本聖公会の平均水準程度まで引き上げる本案について改正を承認。◆第105(定期)教区会への常置委員会提出議案について。先決議案、室根聖ナタエル教会の東北教区への法人合併議案、大館聖パウロ教会・幼稚園舎改築に関する議案、慶弔規程制定、教区会細則改正の各議案について協議しこれを承認。◆教区業務組織及び業務分掌規程の改訂について。渉外主事は廃する。「災害対応デスク」は総務主事管轄に変更する。「不動産活用グループ」は廃止、案件が発生した際には都度プロジェクトとして立てる。「協働グループ」は、宣教協働区協働委員の働きが始まり、同名の混乱を避けるため「コラボレーション推進グループ」に変更し、活動を教区内の各教会やグループ等の連携も推進していく。以上について承認。

教区展望会議では、新たな取り組みとして『意見交換会』を企画開催しました。

これまでニュースレター等で紹介してきたとおり、教区展望会議は東北教区宣教方針（ミッション・ステートメント）の実践を如何に推し進めていくかという活動を活動の柱としています。

教区展望会議 意見交換会全3回開催報告

教区展望会議 議長 三ハネ 柳沼 芳裕

柱としています。勿論、具体的な実践は各教会で取り組んでいただくことになりませんが、取り組みに対する意識や実践の進み具合は様々ではないと認識しております。こうした現在の課題を乗り越え、

との主旨で企画したのが今回の『意見交換会』でした。

8月21日(土)、9月18日(土)、10月16日(土)の3回にわたりオンライン形式で開催し、いつもの展望会議メンバーに加え数名の信徒の方々と教役者の参加を得、各回とも活発にミッション・ステートメントの実践について意見交換をすることが出来ました。

第1回目は「自分たちの教会の10年後を見据えて、今やるべきこと」、第2回目は「外部への発信、地域とのつながり」をそれぞれテーマに、第3回目は①「地域の中で教会の活用：アクティブな教会」②「インターネットの活用」③「幼保園へ開く」の3つのテーマでグループに分かれ意見交換を行いました。

第3回のテーマは、2回の意見交換を通して挙げられた各教会に共通する課題を基に、教会を「開いていく」ため、私たちは何を「ささげられる」のかを意識して設定、意見を交わしました。各回の詳細な報告についてはこれまでに発行された展望会議ニュースレターをご覧ください。

今回の意見交換会で交わさ

れた様々な意見、提案を踏まえ、次期教区会に「展望会議からの提言」として報告したいと考えています。また今回の意見交換会では、新たに参加していただいた方々から意見を聴くことにより、「私たちの教会は福音を必要としている人々へ手を差し出すことが出来ているのだろうか」「広く社会の課題に対してしっかりと向き合うことが出来ているのだろうか」など、新たな気づきも得ることが出来ました。今年度は全3回の開催でしたが、次年度も何らかの形で継続、教区内の多くの皆さんの意見を教区展望に反映させていきたいと考えています。

多くの教会で働き手が少ない現状にあり、また教会それぞれの規模も大きく異なりますので、同じことを同じように実践することは出来ません。しかしながら、小さい取り組みでも、まず、やってみよう」という意識の大切さを失うことなく、皆さんと一緒に考え、歩んでいきたいと思っています。

「せみなりお青葉シリーズ」ご案内

奉仕職養成グループ リーダー
司祭 ステバノ 涌井 康福

謝でした。

もうひとつ「せみなりお青葉シリーズ2『み言葉の礼拝』」を献げる 礼拝奉仕者と会衆のための手引き」を吉田主教に書き上げていただき、皆様にお届けすることができました。加藤主教に執筆いただいた

東北地方では新型コロナウイルスの勢いがだいぶ落ちてきたかに見えますが、それが原因で礼拝や教会活動、教区の様々な働きに2年もの間足かせをはめられるとは思ってもよらないことでした。奉仕職養成グループでも、毎年継続していた黙想会、研修会などを開催することができませんでしたが、「奉仕職に召される人が与えられるため」の祈りのカード作成、ウェブで開催となった「奉仕のススメ」という新しい働きが与えられたことは感謝でした。

たシリーズ1「み言葉の礼拝等での信徒の勧話についての13話」に続き、み言葉の礼拝に関するものとなりましたが、それだけ今の東北教区ではみ言葉の礼拝の重要度が増していると考えています。吉田主教も「み言葉の礼拝は司祭が不在だから『仕方なく』献げる礼拝ではなく、聖餐式と共に大事な主日礼拝です。」と言われていますが、これまではどうしても聖餐式の代わりの礼拝としてとらえられてきていたかもしれません。しかしみ言葉の礼拝には信徒と聖職がひとつとなつて作り上げていくことのできる可能性があることも、この本の中には記されています。通常私たちは聖職はこの礼拝を司式したり、参列することは今のところありませんが、できる範囲で自分の教会の「み言葉の礼拝」を献げることを信徒のみなさんと共に考え、献げていくことが出来たら、それは新しい喜びにつながっていくのではないかと思います。そのためこの「せみなりお青葉シリーズ」が活かされることを願っています。

シリーズ
わたしの道の光「信仰生活で大切に
していること」

秋田聖救主教会

ドロテヤ 桐越 正子



私が原稿の依頼を手にした際「書くことなど到底できない、どうしよう」との思いでいっぱいでしたが、憚りながら決心した次第です。

「自分が神さまを見ているのではなく神さまが自分をみてる」神様は超えられない試練は与えない」この言葉を心にため、神様にすべてを委ねている私です。

私は長い間養護老人ホームの看護師として働いてきました。難局に突き当たった際は他職種の人や、関係機関の人々との折衝の場面が多々ありました。この様な時はとても辛い時があります。その様な時には自分の気持ちは何も言わなくても神さまはすべて

理解してくれているとの思いで自分を見失わずに來れたと思っています。

家庭生活の中でもいつも明るく楽しいことばかりではありません。子育てでもたくさん悩みました。後で考えると取るに足りないことであつても、渦中の時は「神も仏もない、なんで私ばかり」との思いが広がります。心の中で神さまに話しかけることで投げやりにならずにすんだと思っています。

私は学生の時に洗礼を受けました。仕事と家庭生活の中で次第に教会への足が遠のきました。そんな中でも小野俊作司祭様が勤務先の病院へ訪問してくださり、とても励まされた記憶があります。また夫の転勤で秋田市から大館市に引っ越した際には、八戸功司祭様、奥様から暖かい声かけをして頂き、不慣れな土地での生活でしたが、充実した3年間を過ごすことができました。更にこの期間は我が家にとつての一大事もありました。それは八戸司祭、奥様の勧めにて夫と三人の子どもが洗礼を受けることになりました。家族と共に教会の礼拝に

出席することなど思いもよらないことであり、神様の大きな恵みを感じ、感謝で一杯でした。その後秋田に戻つての生活ですが、子どもは聖使幼稚園に通園し、日曜学校にも通っていました。その子どもたちも秋田聖救主教会で聖婚式を挙げました。長男の妻は長谷川清純司祭様のお導きにより受洗、ともに堅信に与り、またその子どもも受洗し、大きなお恵みを頂きました。私の両親は孫の幼稚園の送迎、聖婚式などを通して少しずつ教会の存在が身近なものになっていったのかもしれない。2011年父が入院しました。私の事情もあり、長谷川司祭様に相談し、洗礼を受け、教会での葬儀ができました。10年後の2021年7月に母が亡くなり、無事葬儀を終えることができました。仏教徒の両親でしたが、神様の子どもとなり、永遠の命を得て天国にいと信じています。

愚かな私に神さまは沢山の恵みを与えてくれます。これから少しでも御心にかなう人生を歩めたらと願っています。

新型コロナウイルス感染症による

緊急事態宣言により、三度の延期に見舞われましたが、無事洗礼・堅信式を受けることができました。顧みますと、洗礼志願に至るまでには、三つの過程がありました。

二に、東日本大震災の年の5月から約2カ月、長女が住むオーストラリア・メ

「堅信を受けて」

仙台聖フランシス教会
ヨセフ 大槻 治威

(左)大槻さんご夫妻、(右)金友さんご夫妻

徒の金友夫妻の、他者に対する数多くの愛ある援助の姿を見聞きする度に、世に横断する自利を優先し利他を疎かにする行動が蔓延る世の中で、お二人の行動の根底にあるものは何なのかを思索した結果、そこにはキリスト教の教えが存在することに気が付いたこと。

三に、加藤博道主教との一年間の聖書勉強会に参加できたこと。私と聖書との出会いはマレーシアに住んでいた折、インド人の友人がクリスチャンであったことで、彼の読んでいる聖書を手にした時で

ルボルンに滞在していた折、毎週金曜日に妻と散歩がてら数カ所の教会を巡っていました。どの教会も訪れた人々に信徒の方が教会の歴史や建物などを丁寧に説明しておられました。教会とは信者でない者にも開かれている所なのだと教会に対する認識を新たにしました。

二に、仙台基督教会信

この三つの事由が私を洗礼・堅信へ導いてくれた道程です。これからの信仰を深めて参りたいと思っています。

新ヴァイアル山荘 落成！

十和田湖畔施設活用グループ リーダー
司祭 フランシス 長谷川 清純



11月23日、

めでたく改築
工事が竣工し、吉田雅人主
司、参列司祭たち補式によ
り落成式を挙行政致しまし
た。これも偏に多くの皆様
の支援のおかげと、また神
様からの恵みと存じて心か
ら感謝申し上げます。

コロナ禍で、落成式には
中からの参集は叶いません
でしたが、参列者の詩編交
唱の音が静かに建物内外に
広がり、喜びと感謝の祈り
が湖面を渡るようでした。

改築は早くも50年程前に
故ヴァイアル主教が望まれ、
十和田湖畔「ヴァイアル山
荘」

鉛山聖救主
礼拝堂管理
運営委員
会、十数
年前から
よく改修
を検討し
てこられ
た、正に
悲願の事
業でした。

工事経過
は、6月2
日ヴァイ
アル山荘
の祝福を
解く祈り
に始まり
、6月18
日解体工
事開始、
6月30
日起工式
、10月1
3日施工
主検査・
引渡しが
行われま
したが、
工期内完
工の順調
さは施工
の伊藤羽
州建設の
誠心誠意
あること
努力によ
るもので
した。ま
た土地家
屋調査士
の加藤靖
隆氏は1
年以上に
わたり、
根気よく
現地調査
と図面調
査に当た
り境界確
定を得た
結果、所
有地面積
は正式に
拡張しま
した。式
後、設計
のNAKA
建築設計
室・中川
義明氏、
伊藤羽州
建設と加
藤氏に感
謝の品々
が贈呈さ
れました
。ナザレ
修女会か
らの祝電
も披露さ
れました。



この日、式の前後は雨でし
たが落成式の際は晴れて、開
式前に一度虹が出て、さらに
式中もう一度虹がかかり、神
様の祝福と前途へのお恵みの
約束と受け止められて、一同
熱い思いになり感激しました。
この後は、約半年間の長い
冬ごもりに入ります。一冬を
過ごすことから新ヴァイアル
山荘の新しい歴史・第二世紀
の歩みが始まり、来年5月7
日(土)開所式を迎えて大々的
にオープンする予定です。ご
利用案内やパンフレット等を
用意しますから、皆様、来春
からは是非奮ってご利用くだ
さい。

最後に改築募金にご協力、
誠に有り難うございました。

堅信おめでとう

ヨセフ 大槻 治威
(10月10日・フランシス)

永遠の平安

テレジア 安部 しげ子
(11月1日・山形)

紙面の都合により、「北から
南から」はお休みいたしまし
た。

12月逝去者記念聖餐式

12月7日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教
説教 吉田 雅人 主教

司祭 アタナシオ 笹森 伸兒

2019年12月1日逝去

宣教師 Miss Ethel H. Correll

1920年12月5日逝去

司祭 イザヤ 櫻井 享

2010年12月6日逝去

伝道師 ヨハネ 土田 八九十

1924年12月8日逝去

司祭 ヤコブ 木村 光二

1979年12月9日逝去

宣教師 Miss Anna Theodora Wall

1917年12月12日逝去

司祭 John Cary Ambler

1946年12月13日逝去

主教 テモテ 中村 信蔵

1969年12月16日逝去

司祭 Frank Hazlett Jr. Moss

1963年12月19日逝去

司祭 近重 利澄

1934年12月22日逝去

司祭 コルネリオ 斎藤 雄一

2017年12月22日逝去

司祭 片田 蔦五郎

1956年12月24日逝去

主教 ウイリアム 村上 達夫

2016年12月28日逝去

司祭 ステパノ 大矢 敬香

1942年12月30日逝去

司祭 ステパノ 奥村 亮

1948年12月31日逝去

司祭 ヨハネ 桜井 健

1979年12月31日逝去

